

【1 分解説】ノーコード・ローコードとは？

総合調査部 政策調査グループ 研究理事 重原正明

ノーコード・ローコードとは、プログラム（アプリ）開発の手法のうち、プログラム作成のための文書（コード）を用いないもの（ノーコード）、あるいは簡単な文書しか用いないもの（ローコード）のことです。

コンピューター等のプログラムを開発するためには、コンピューター等に自分のやりたい事、行ってほしい処理内容を伝える必要があります。伝える方法にはいろいろなものがありますが、コンピューターにわかりやすい言葉を使って文書を書くのが BASIC, C, Python といったプログラム言語で、その習得がコンピューター活用の壁となる場合もあります。

ノーコード・ローコードの開発手法（開発ツール）は、より人間に近い形でコンピューター等に指示したいことを記せるようにし、その壁を取り払うものです。ツール内でコンピューター等の読みやすい言語に翻訳することが多く行われます。AI にコードを書かせる方法もありますが、ノーコード・ローコードは利用者がコードを（あまり）意識しないで使用できる点が異なります。

コンピューター等にその能力をフルに発揮させることは難しいですが、こどもを含め、多くの人にコンピューター等のプログラムを作れることを可能にする点で、ノーコード・ローコードのツールは有用と言えます。

関連レポート

・「DX を推進するノーコード/ローコード開発～誰でもアプリケーション開発者になれる時代の到来～」(2022 年 6 月) <https://www.dlri.co.jp/report/ld/193166.html>